

平成24年度学校評価報告書

金光八尾中学校
金光八尾高等学校
校長 本荘 忠彦

学校法人関西金光学園学校評価実施規程により、次の通り学校評価を実施しましたので報告いたします。

I. 自己評価(教職員による評価)

1. 実施要領

- (1) 評価対象 教諭,常勤講師および事務職員 64人
- (2) 実施日 平成25年2月20日
- (3) 回答数 64
- (4) 回答率 100%
- (5) 実施方法 アンケートによる個人回答調査(記名方式)

2. 自己評価の結果

- A.よくあてはまる B.ややあてはまる C.あまりあてはまらない D.まったくあてはまらない
 A,Bと回答した教職員の合計が,
 a. 75%以上 b. 50%以上75%未満 c. 25%以上50%未満 d. 25%未満

分類	評価項目	評価指標	評価	評価者
学校経営	1 私学の独自性	建学の精神に基づいた「人間平等」「個性尊重」「心を育てる」教育が教職員、生徒によく浸透している。	a	教職員
	2 愛校心	在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。	a	教職員
	3 教職員間の連携	(1) 教科間、学年間等、同僚教員との協力・連携が行われている。	a	教職員
		(2) 教員と事務職員の情報交換の機会があり、相互の理解・連携が取れている。	a	教職員
	4 会議の有効性	職員会議、学年会、教科会、部会等で、それぞれの課題を踏まえた話し合いが有効かつ十分に行われている。	a	教職員
	5 財務関係	(1) 教職員は学校の経営指標、財務状況について理解している。	b	教職員
		(2) 教職員は職員会議や学年会などで示された資料等を通して、学校・学年の予算、決算の収支を把握している。	b	教職員
	6 危機管理	(1) 危機管理マニュアル、警察、消防との連携、訓練など学校の安全対策が十分にとられている。	a	教職員
		(2) 災害・事件・事故等の危機に対する管理体制が整っており、役割分担も明確である。	a	教職員
	7 施設・設備管理	施設・設備が日常的に点検・管理されている。	a	教職員
	8 生徒募集・広報	生徒募集・広報業務が関係部署を中心に効率的・効果的に行われている。	a	教職員
9 文書・帳簿管理	(1) 文書の決裁・発送・保管等が整っている。	a	教職員	
	(2) 指導要録等の諸帳簿の記入・管理が適正に行われている。	a	教員	
10 情報管理	個人情報保護法に基づき、全ての情報の管理システムが整備され、情報モラルの向上のための指導がなされている。	a	教職員	
11 情報の発信・公開	ホームページ等を活用して、積極的に情報が公開されている。	a	教職員	
教科指導	12 教科指導の基本姿勢	教科指導は学校経営方針に従っている。	a	教員
	13 教育課程	学習指導要領に則り、特色のある教育課程を編成し、年間を通じて計画的に授業が進められている。	a	教員
	14 6年一貫教育の推進	6年一貫教育を推進する意識が、教育課程をはじめとして、中高の教員間に定着している。	a	教員
	15 明確な到達目標の設定	教員は学力向上に向け、数値目標などの到達目標を明確に設定するとともに、その達成に向けた年間指導計画を立て、これを	a	教員
生徒指導	16 生徒指導に対する基本的姿勢	(1) 生徒指導は学校経営方針に従っている。	a	教員
		(2) 生徒指導は組織的に対応する体制がある。	a	教員
		(3) カウンセリングマインドに基づく指導・支援体制がある。	a	教員
	17 家庭との連携	欠席・遅刻を始め生徒のことで何か気になることがあれば、家庭と連携ができています。	a	教員

進路指導	18	進路指導の基本姿勢	進路指導は学校経営方針に従っている。	a	教員
	19	進路指導方針の一貫性	進路HRなどで、生徒の将来を見据えた進路指導が段階的・系統的になされている。	a	教員
人権教育	20	人権教育基本方針の一貫性	(1) 本校の人権教育基本方針に基づき、学年ごとに指導計画を立て、これが実行されている。	a	教員
			(2) 人権および人権問題について正しく理解させるため、様々な学習方法で人権意識を高める教育を行っている。	a	教職員
	21	研究・研修の機会	教職員の人権意識を高めるため、指導方法を研究・研修する機会(フィールドワーク、人権文化講演会など)が十分に設けられて	a	教職員
	22	人権教育の実践	本校の人権教育基本方針に基づき、人権尊重の視点に立った教育が行われている。	a	教職員
教職員の資質	23	校内研修	教員間で授業を公開し、互いに講評し合い授業力向上に努める機会がある。	a	教職員
	24	校外研修	教職員は校外の研修や研究会に参加する体制ができている。	a	教職員
	25	初任者等研修	初任者や経験の浅い教職員に対する研修の機会が設けられている。	a	教職員
	26	研修成果の共有と活用	研修・研究会に参加した成果が自身や他の教職員に生かされている。	a	教職員
	27	服務規律	教職員の服務規律の意識が高い。	a	教職員
特別活動・自主活動	28	学校行事	体育大会、文化祭など学校行事の工夫・改善を行い、生徒にとって魅力的なものになっている。	a	教職員
	29	生徒の主体的活動	HRや生徒会活動等で、生徒が主体的に活動している。	a	教職員
	30	部活動	部活動の時間が確保され、部活動が活発である。	b	教職員
	31	自主・自律・自浄の精神	特別活動、自主活動が生徒の自主・自律・自浄の精神を育てている。	a	教職員

3. 結果所見

全31項目中、29項目においてa評価となり、5の財務関係、30の部活動はb評価であった。

この2項目の内5については、職員会議、学年会、教科会、部会などでの予算・財務状況に関する具体的な資料提供の職員会議をはじめ、学年会等での提供の機会を増やし、教職員の予算や財務状況に対する関心度を一層高めるように工夫したい。また、30については入部率も年々高まっている状況から、より活発化を図り、部活動の活動時間の確保をはじめ、課題となる点の改善に努めたいと考えている。

II. 学校関係者評価(保護者による評価)

平成24年度は新たにPTA役員を加えた学校関係者評価委員会を設置しました。

委員会では、教職員による学校評価(自己評価)の集計結果等資料にして協議を行いました。

学校評価委員会のPTA役員の方からは、アンケートの集計結果を今後の本校の教育実践の場で可能な限り活かしてほしいと要望が出ました。また、日頃の子供たちの様子を保護者の立場から見ていると本校ではクラブ活動と勉学との両立が図られているように感じており、喜んでいるという意見や、アンケートの結果が生徒への授業の在り方に反映してほしいという意見などが出ました。

その他、教員とPTAの評価委員間で、本校の教育実践に関して幅広く意見交換をし、今後の教育活動の参考とさせていただいたところです。